

歴史探訪

クラブ!

其の
125

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

伝説の島 姫島②

5月のある日曜日、姫島を訪れる機会がありました。降り立ったのは島の東岸で、岩が崩れ落ち、波に洗われて丸くなった石が海岸に広がり、藍色に輝く美しい風景でした。いっぽう島の西側は、姫島の骨格を作っている岩が崖となっていて露出し、それが崩れて岩礁となっています。この姫島の骨格を作る地質は、笠山と同じ蛇紋岩と呼ばれる変成岩です。藍色に輝く石の正体は、この蛇紋岩だったのです。



▲姫島の西海岸から笠山方面を望む

江戸時代、姫島では田原藩が軍用の馬を飼育していました。しかし放牧していたためか、飼育・調教技術が悪かったのか、何度試みても使い物にならなかったそうです。その後、1727年を最後に、田原藩は馬の飼育をやめたようです。

自然豊かな姫島は、古くから人々に自然の恵みをもたらしていました。江戸時代の『田原城主考』と呼ばれる歴史書には、姫島(飛馬嶋)の産物として、駒(若い馬)、小海羅(こぶのり・鴨頭海苔)、蛸(アサリ)、藻江澤(モスク)が挙げられています。今でも姫島のアサリは地元の方でもおいしいことで有名です。また海防政策に力を入れていた田原藩は、大



▲田原藩主三宅康明が描いた「姫島駒」(個人蔵)

砲試射や銃陣訓練を盛んに行いました。天保14年(1843)には波瀬町の雷神神社(波瀬台場)から、姫島を的に大砲を打ち、このときに姫島は火事になったそうです。太平洋戦争の折にも、射撃訓練によって島が焼けたという話もあり、無人島ゆえの災難でした。その後は島に畑が作られたため、現在でも風除けに植えられたヒサカキやイヌマキ、石垣で仕切られた畑の区画などを確認できます。不便な無人島にまで、耕作の地を求めた当時の人々のくらしぶりに思いを馳せてしまいます。昭和40年代には観光開発が計画されましたが、具体的には行われないうまま現在に至っています。このことが、姫島の自然環境が守られた理由

のひとつです。昭和43年にも山火事があり、大半の樹木が焼けたため植生にも大きな影響を受け、ネザサに覆われてしまいました。しかし相変わらず貴重な植物や、大きな木も残っています。

姫島は田原市の歴史や豊かな自然を伝える大事な島です。昭和57年には、伊良湖自然科学博物館が総合的な自然環境調査を行いました。しかし、調査が不十分な分野もあるうえ、すでに30年近くも経過し、その後の環境変化も著しいので、現況を調査する必要があると思います。

現在生きる私たちが、姫島の歴史や自然を楽しむことも大切ですが、次の世代に伝えていくためにも、節度ある保全を考える必要があります。(増山)

今月の「表紙」

▼真夏の暑さをものともせず、鮮やかに咲くヒマワリ。撮影に行ったヒマワリ畑には、いろんな方向を向いたヒマワリがあり、「あれ?」と思った私。調べてみたら、太陽の方を向くのは、若い枝や小さなつぼみのときだけ。咲いた花は一方を向いたままになるそうです。今まで知りませんでした。(O)

【表紙の写真】ヒマワリ畑(サンテバルクたはら)